

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価（中間報告）		学校関係者評価 (10月22日実施)	総合評価（3月10日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	・ 定時制総合学科、単位制の仕組み、工業の施設・設備を活かし、基礎学力の定着と生きる力を育む教育課程を編成する。 ・ 多様な生徒の学習ニーズに応える柔軟できめ細やかな学習支援の充実を図る。	①生徒の特性等を考慮した履修指導、学外学修指導を行うとともに、閉課程に向けて教育課程を整備する。 ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、個別最適な学びを組織的に行う。	①生徒一人ひとりの単位修得につながる履修指導、学外学修指導を組織的に行う。 ①閉課程を見据えて、見通しを持った学習ができるよう時間割・履修指導計画の整備を行う。 ②ICTを有効活用し、個に応じた丁寧できめ細かな教科指導を行い、組織的に授業力向上を図る。	①個に応じた履修指導、学外学修指導を行い、単位修得につなげることができたか。 ①令和7年度の時間割整備、履修指導計画の整備を行えたか。 ②生徒による授業評価において「授業の在り方」で80%以上が肯定的な意見であったか。 ②研究授業・校内授業改善研修会を計画的に実施できたか。	①令和7年度の時間割整備を行い、第1回選択科目説明会・個別の履修指導を実施した。 ①夏季休業中の取組みとして、学外学修の指導を組織的に行った。 ②第1回目の生徒による授業評価では、多くが肯定的な意見であったが、教科により偏りがあった。 ②ICT 機器を有効活用した、個別最適な学びの実現に向けた授業改善研修会を実施した。	①年度末に向けて、単位修得・見通しを持った学びができるように、個に応じた履修指導を行う。 ①総合学科の学びを活かした学外学修に取り組むことができるよう、積極的に参加を促す。 ②年間を通して、どの教科も肯定的な意見となるように、組織的に授業改善に取り組む。 ②個別最適な学びの実現に向け、引き続き組織的な授業改善に努める。	・ 生徒による評価が概ね良かったことから、目指す教育課程編成に近づいていると思われる。 ・ 閉課程が迫る中ではあるが、総合学科の学びを活かした、生徒一人ひとりに合わせた対応ができています。 ・ 少人数ならではの問題もあると思うが、個々に寄り添った活動を継続してもらいたい。	①選択科目体験授業を実施し、学習の見通しが持てるよう個に応じた丁寧な履修指導ができた。 ①年間を通じて、多くの生徒が学外学修に取組み、単位修得につなげることができた。 ②生徒による授業評価では、組織的な授業改善に取組み、年間を通して各教科80%以上が肯定的な意見であった。 ②個別最適な学びの実現に向け、ICT機器の有効活用に関する校内研修会を実施し、組織的な授業改善に努めた。	①閉課程に向け、生徒一人ひとりが卒業までの学習の見通しを持つことができるように、組織的に履修指導を行っていく。 ①学外学修に取り組み、単位修得につながるように計画し、組織的に指導を行う。 ②引き続き、ICT 機器を有効活用した授業の実践、個別最適な学びの実現に向けての授業改善に、組織的に取り組んでいく。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	・ 生徒にとって安心、安全な教育環境の確保に努め、生徒の自己実現に向けたきめ細かな支援の充実を図る。 ・ 生徒の発達段階等を考慮して可能な限りの合理的配慮を推進する。	①生徒一人ひとりの課題を早期に発見し、生徒の能力が最大限に発揮できるよう環境の整備を行う。 ②特性に応じた適切な支援教育を関係機関と連携しながら積極的に実施する。	①部活動、学校外の学修等あらゆる機会を通し、地域の方や同年代の高校生との交流機会を増やす。 ①生徒一人ひとりの課題の改善や環境整備に対する取組を組織的にを行い、支援教育の充実を図る。 ②セルフチェックにより、生徒が自己理解を深め、教員が生徒の心身の状態を把握できるよう取組む。 ②特別な支援や配慮が必要な生徒へ、外部機関と連携し、学校生活の充実と適切な進路に繋がるように支援を行う。	①職員間の情報共有が適切に行われたか。 ①環境整備、支援教育を充実させられたか。 ②セルフチェックにより、生徒の心身の状況把握ができたか。 ②支援が必要な生徒に対して、外部機関との連携が適切に行われたか。 ②特に、支援が必要な生徒について、キャリアガイダンスPTにおいて、その役割を果たすことができたか。	①部活動については、生徒が活動を希望する2つの部活動について新設および活動再開の扱いとした。 ①教育相談会を月1回ペースで開催するとともに、必要な生徒については適宜ケース会議を実施し、SSW・SCの助言に基づいて学習環境の整備を図った。 ②セルフチェックは回答数の低下は認められるものの、継続して実施している。 ②必要なケースにおいて、SSWを中心に行政・福祉・医療機関等と連携をすすめている。	①少数の生徒数の中でも生徒会・学校行事・部活動等、機会をとらえて生徒が活発に活動できる場面を確保する。 ①教育相談会およびケース会議の支援方針決定に従って、迅速なSSW・SC面談、必要に応じた行政・福祉・医療等と連携を図る。 ②生徒のSOSを丁寧に拾い上げる。 ②緊急事案等でSSWの活用を広げるため、他校からの融通も含めた活用を進める。	・ 生徒が求める活動を充実させており、定期的な教育相談の実施等、生徒の実態に即した支援が行われていると思われる。 ・ 部活動では大会などを通して校外との交流を行えているようである。 今後積極的に活動に期待したい。 教育相談等では、様々な問題を抱えた生徒たちに対してしっかりと準備し、対応している。	①生徒の部活動を支援し全国大会等への出場を果たした。 ②総合教育センターと連携し、助言を受け、生徒支援方針に反映させた。職員が障害特性に関してさらに理解を深める必要がある。 ②教育相談会を原則月1回実施し、適切な生徒支援に繋げることができた。また、登校が困難な生徒等に対するメディアを活用した授業の方針を定め、学習機会の保障に努めた。 ②登校が困難な事態を想定したオンライン授業を試みた。実施日は、ほとんどの生徒が出席して学習することができた。	①少人数の生徒数の中でどのように集団活動を実践するか工夫しながら進めていく。 ②知的障害や発達障害、精神疾患に特化した職員向け研修が必要である。 ②学校生活全般における生徒の特性に応じた支援は教職員の連携が不可欠であるが、改善の余地がある。

3	進路指導・支援	<p>・支援が必要な生徒の多様な進路支援の充実を図る。</p> <p>・生徒の実情に合わせたキャリア教育を推進し、社会生活実践力の育成を図る。</p>	<p>①生徒一人ひとりに応じた進路指導・支援体制を維持・強化し、希望の進路実現を図る。</p> <p>②発達の特性を考慮し、的確な進路提案が行えるよう体制の整備を組織的に行う。</p>	<p>①新設P Tにより、生徒の実情を把握し、引き続き個に応じた進路指導・支援を行う。</p> <p>①改訂した進路の手引きを活用し、新設P Tを軸に組織的な進路指導・進路支援へ向け体制を整備する。</p> <p>①職業観育成のため、学校外における学修等への参加を積極的に呼びかけ、事業所見学等により生徒が主体的に進路活動に取り組む環境を整える。</p> <p>②特別な支援を必要とする生徒への対応を組織的に行い、S S W・S C、医療機関・療育センター・就労移行支援事業等の外部機関とも積極的に連携する。</p>	<p>①就職を希望する生徒の内定者および継続的に就職活動を行っている生徒が合わせて80%を超えたか。</p> <p>①進学を希望する生徒の80%が志望分野への進学決定ができたか。</p> <p>①新設P Tによる連携が円滑に進んだか。</p> <p>①就業体験等への対外的活動の参加者が増加したか。</p> <p>②組織的に就労支援等の福祉領域における支援が行えたか。</p>	<p>①今年度の進路決定状況は、生徒によってペースは異なるものの、確実に前進している。</p> <p>①施設見学では、職業技術校と事業所の2か所を見学した。また、今年度はハローワーク見学会も実施した。</p> <p>①約 50%の生徒が夏季休業期間を中心に、就業体験（民間企業・職業技術校等）、学校外の学修（大学・専門学校等）に参加した。</p> <p>②今年度、該当生徒はいないが、就労移行支援事業所、福祉就労受け入れ先事業所等との連携を継続している。</p>	<p>①今年度卒業予定生徒に進路活動の継続的な取り組みを促し、なるべく進路未定のまま卒業することが無いうに支援を強化する。また、来年度以降に進路を決定する生徒についても、就業体験等に参加するように面談等を通じて声掛けを行う。</p> <p>①P Tの職員は各グループ業務を行いながら進路業務にあたっている。業務の均衡化の観点から状況によっては見直しが必要である。</p> <p>②引き続き就労移行支援事業所と連携を進める。</p>	<p>・卒業後の進路を真剣に考え、希望をもって前進する意欲を育てる取組を感じる。</p> <p>・見学や体験を通して一人ひとりの生徒が自分の進路を見つけられるよう活動を続けてもらいたい。</p> <p>・自身の将来を考えるきっかけをできる限り多く生徒に与えることが重要であると思う。</p>	<p>①PT を中心とした職員の連携とハローワークの協力により、今年度卒業する全ての生徒の進路が決定した。</p> <p>①全校の半数近い生徒が就業体験に参加した。参加に至らなかった生徒への声掛け等を工夫する必要がある。</p> <p>②今年度は福祉就労等の進路決定はなかったが、就労支援事業所等との連携は継続しており、必要に応じて活用できる体制を継続している。また、就労支援事業所および発達障害支援センターの担当者を招き、校内研修を2回実施した。</p>	<p>①PT 担当者の負担が重く、業務量均衡化の観点からも廃止を含めた検討が必要である。また、就業体験の参加希望者が多いのは好ましい事だが、朝からの体験活動に対応する職員の長時間勤務の課題が残る。</p> <p>②一般的な就職や進学の支援に加えて、主に特別支援学校が行なっている福祉就労等の支援が必要であり、対応や手続きが複雑でマニュアル化が困難である。校内の協力体制の構築について検討が必要である。</p>
4	地域等との協働	<p>・地元企業、地域の支援機関との連携強化を図る。</p> <p>・情報発信を通して、地域社会との連携を強化する。</p>	<p>①地元企業、就労移行支援事業所等との連携強化を図る。</p> <p>②本校の活動報告等を地域または保護者・中学生等にP Rする。</p>	<p>①地域の事業所等と連携し、インターンシップ、オープンファクトリー、就労移行の体験等への参加を呼び掛ける。</p> <p>②本校の教育活動をホームページ等で積極的に発信、更新し広報活動につなげ、本校の魅力を発信する。</p>	<p>①地域の事業所等の体験的な取組みへの参加状況がどうだったか。</p> <p>②活動情報を積極的かつ速やかに更新し、学校見学や学校説明会の参加者が増加したか。</p>	<p>①地元企業には今年度も就業体験を受け入れていただいている。また下野毛工業協同組合のオープンファクトリー参加を呼び掛ける予定である。</p> <p>②在校生徒や保護者等、また地域の方々や本校への進学希望者への有益な情報について積極的な更新ができています。</p>	<p>①学校外の取り組みに不安感を訴える生徒も多く、発達段階に応じた声掛けが必要である。</p> <p>②在校生徒や保護者等には校内の最新情報の更新、地域の方々や本校へ進学希望者に対しては、校内情報及びイベント情報などを継続的に発信する。</p>	<p>・地域とのかかわりが生徒や保護者の方々にとって有益になるよう、活動を続けていただきたい。</p> <p>・オープンファクトリーは地域の中小企業の技術を知る良い機会なので、積極的に参加いただきたい。</p>	<p>①オープンファクトリーを全校生徒に周知したが、生徒参加に至らなかった。</p> <p>②ホームページの更新を積極的に行った。学校行事をはじめ多くの情報を昨年に比べ発信することができたが、学校説明会の参加者は昨年に比べ減少した。</p>	<p>①周知の方法等を工夫したい。</p> <p>②職員対象に、ホームページ利用についての案内と原稿作成についての説明会を行う必要がある。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>・校内設備や備品を適切に管理し、安全教育、環境教育の推進を図る。</p> <p>・全職員の資質向上を図るとともに、風通しの良い職場づくりを目指し、教職員の事故や不祥事を未然に防止する。</p>	<p>①定期的に施設設備の備品管理・保守点検を行うとともに、非常時・緊急時の対応の意識向上を目指す。</p> <p>②事故防止に向けた、定期的な研修を行い、不祥事防止を徹底する。</p>	<p>①定期的に施設点検管理の実施、安全点検を行う。</p> <p>①非常時・緊急時に対応できる体制づくり、地域と連携した訓練等を行い防災意識の向上を図る。</p> <p>②私費会計の事故防止を徹底する。</p>	<p>①教室や実習室などを中心に適時的に備品設備の点検などを実施できたか。</p> <p>①様々な緊急時を想定した災害について意識向上につなげることができたか。</p> <p>②私費会計基準に則った適切な処理を行い、不適切な事案はなかったか。</p>	<p>①施設点検を定期的に行い、備品更新を行い安全管理に努めている。</p> <p>①授業中を想定した避難訓練を実施し、生徒・職員の防災意識を高めることができた。</p> <p>②会計処理について管理職に確認と共に担当者同士で情報共有し適切な処理に努める。</p>	<p>①日頃から施設の安全点検を継続的にを行い、防災用品の点検、および備品のチェックなどを行い安全管理に努めている。</p> <p>①地震及び火災の防災訓練を実施し、避難経路の確認と防災意識の向上につながった。</p> <p>②適切な会計処理を行う為、職員間での問題解決に向けた会議及び情報共有などを行い、不祥事ゼロを目指す。</p>	<p>・校内の環境整備や災害への対策を問題なく行えている。</p> <p>・防災教育、会計処理等、適切に取り組んでいると思われる。</p>	<p>①備品確認と安全点検を定期的の実施、教育環境の整備に努めた。</p> <p>①防災訓練の実施に伴い防災体制の確認を行った。またI C T機器を用いたD I G訓練を実施した。</p> <p>②適切な会計処理に向けた定期的な打合せを実施し、問題共有と解決策の検討を行い、事故防止に努めた。また、処理方法について職員全体で共通理解を深め意識向上を図る。</p>	<p>①既存の施設管理について、定期点検と項目を設け、職員全体で取り組む体制づくりを整えるとともに、職員への意識を持たせる働きかけをする。</p> <p>①新たな災害を想定し、防災訓練を引き続き行う。</p> <p>②会計処理について全職員対象に研修会の実施、また、会計担当者の打ち合わせを定期的に行う。</p>